

## 自動車組み立て工場と 関連工場・自動車のゆくえ

大阪府大阪市立北巽小学校 遊佐邦彦

### 1. はじめに

中単元「自動車工業がさかんな地域（愛知県）」を学習する時10時間の計画を立て、学習をすすめ、地図帳は第3・4次に活用した。

第1次	くらしのなかの自動車を調べよう	(1時間)
第2次	自動車組み立て工場を調べよう	(4時間)
第3次	工場のつながりを調べよう	(3時間)
第4次	自動車のゆくえを調べよう	(2時間)

### 2. 工場のつながりを調べよう

まず、自動車にはさまざまな原材料がいること、また、1台の自動車を完成させるためには、約3万点の部品が必要なることを理解させる。次に、組み立て工場周辺の関連工場を、帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.31でさがすことにした。児童は ①部品センター ②自動車部品工場 ③エンジン工場 ④製鉄 ⑤鋼管 ⑥製油 ⑦ガラス ⑧ゴム ⑨IC ⑩コンピュータ ⑪アルミなどの工場を次々とみつけ、発表した。

児童は、「自動車の組み立て工場の近くに多くの部品工場がある」といった発言にみられるように、関連工場が組み立て工場周辺に集まっていることに気づいた。そこで、指導者の助言により工場の立地条件について考えた。児童は自動車に関わる工場が原料・部品・完成品が輸送しやすいという理由で高速道路・広い道路や海岸線の近くに立地していること、必要な数の多種多様な部品を必要な時期に納入するため、多くの関連工場が組み立て工場の周辺に集まっていることを考えることができた。

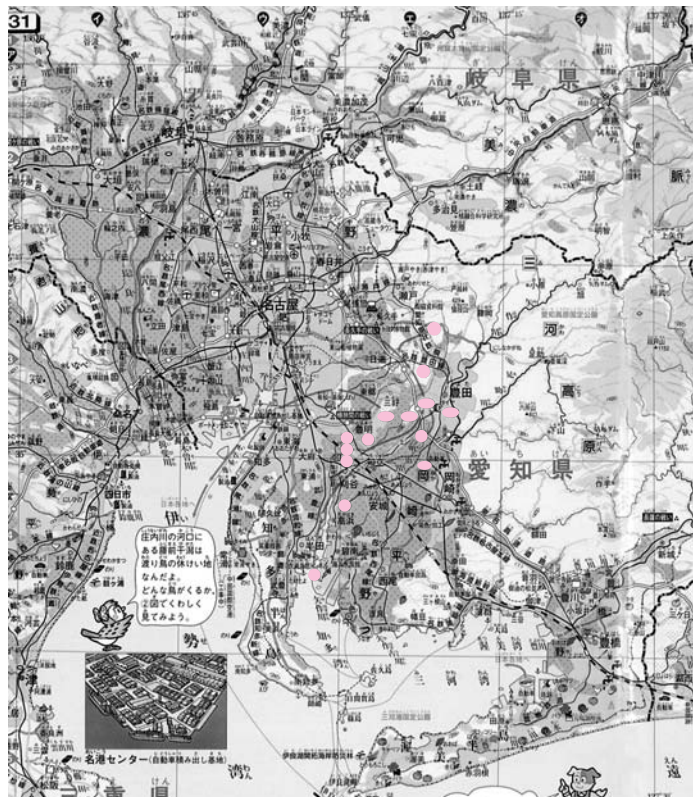
### 3. 自動車のゆくえを調べよう

同地図帳の同図で自動車生産の流れの矢印やイラストを調べることから、「矢印をたどると自動車が作られ、日本各地や外国に運ばれる流れになっている」ということに気づき、完成品が自動車積み出し基地（各港センター）から日本と世界の各地へ運ばれるようすを理解していった。

そのうえで、日本の自動車産業の優秀さと製品の優れた性能が海外への輸出につながっていることに気づいていった。

### 4. おわりに

児童が地図帳を深く見ていくことで、自動車産業の現状への理解を深めることができた。今後も地図を活用し「調べ考える」という社会科学学習における資料活用能力を育てていきたい。



帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.31